
ちっぽけな小銭たち

ヒルトウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちっぽけな小銭たち

【Nコード】

N7143N

【作者名】

ヒルトウス

【あらすじ】

使われない小銭が、新しい持ち主を求め、コンビニのレジから脱出！

自分達の正体は！？（小銭に決まってるじゃん・・・案外違うかも！？）

(前書き)

面白くないと思います(初の短編なので)。

ぼくは、10円玉だ。

細かい支払いや、お釣りに使われる。

でも、ぼくとしては10円玉10000枚で1000000円の支払いをしてほしい。

ぼくだってお金なんだ。

ぼくだって、たくさんあるお金と同じように、ちゃんと発行された、大事な金なんだ！

できればそう叫びたい。

ぼくは今、コンビニのレジの中にいる。

暗いなあ。

新しい持ち主にめぐり合えないかなあ。

ずっとそう思っている。

でも、奥のほうにあるから、あまり取られないし、毎日たくさん的小銭がジャラジャラ入ってくるから、出番は今はない。

そんなある日、ぼくは偶然小銭を入れたときに跳ねて十円玉の部屋に入ってきた、百円玉を見た。

そいつはぎらぎらしている。にやりと笑った。

十円玉たちが

「素敵ね」とか「かつこいいい！」とかしゃべりだした。

店員は気づいていない。

くそぞ。こいつ、格好つけやがって。

店員！ 気づけ！ 百円玉がいるぞ！
結局、そいつはレジを開けたときに百円玉の部屋に帰った。

数日後、ぼくと同じようにレジの奥のほうにいた小銭たちとぼくは、脱出計画を練った。

- 1、 店員や客の目を盗み、逃げ出す。
- 2、 その辺にいて、拾われる。
- 3、 新しい持ち主の元を巡り、どの店でもできるだけレジの奥に入らないようにする。

次の日。

ぼくたちは出発。

犬や猫に襲われた。

車の風圧で飛んだりもした。

でもめげない。

しばらく歩く。

人がくるたび止まり、速度は遅い。

休憩しようと倒れたそのとき、子供の人影が……。

「子供だ！ じっとしろ！」

ぼくたちは、じっとしていた……。

「あ、小銭だ」

「ホントだ」

その子供たちはしばらくぼくたちを見た。

「なーんだ、こんなのか」

えっ、なんだと？

ぼくたちだつて、お金なんだあああああああああああ
ああ！

自分の体を見た。

光沢がない。

立ち上がる。

重みがない。

こ、これって……。

「プラスティックウウウウウウウウウウウウウウウウ！？」

「じゃあ何でレジに入ってたんだ！」

「おれたち、子供に出されたんだよなあ」

「そうだったっけ？」

「おもちゃの小銭を子供がふざけて出して、まぎれて入っちゃった
とか？」

ぼくたちは、おもちゃだったのか……。

「ああ、あったあった」数日後、ぼくたちは大人の人に拾われた。

「A太郎、これ？」

「うん！」子供の元気な声。懐かしい気がしてきた。だんだん記憶
が……。 「よかつたあ〜」

ああ、そうだ。A太郎だ。ぼくらの持ち主だ。思い出した。

ぼくたちは、A太郎のおもちや箱に入った。

ぼくは十円玉だ。

レジに入れられている。

ぼくを使ってくれ。

それはまずかなわない。

ぼくはおもちやだ。

「母さん、ある？」

また脱出したぼくらを、大人の人が拾う。

「A太郎、これ？」

「うん！」

(後書き)

面白かったですか？

他の作品もぜひ読んでください！(ヒマなら)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7143n/>

ちっぽけな小銭たち

2010年10月20日02時39分発行